



保育現場の超具体的安全戦略!

第11号 「やけどの危険」は、 どこにある?



所 真里子



日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。

暖房や加湿器を日常的に使う時期です。今月は冬に多い「やけど」を取り上げます。子どもの皮膚は薄いため、おとなよりも低い温度、短い時間でやけどになります。やけどの原因がある場所、原因になるものを探しましょう!

高温の液体がある場所

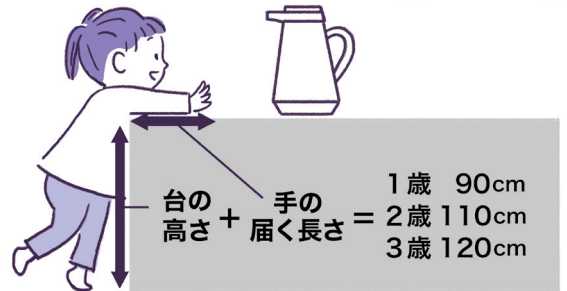
ミルク用のポット、給食のスープの鍋、お茶の入ったやかん、加湿器のタンクなどが当てはまります。子どもの手の届かない場所に置いて、つまずいてぶつかったり、コードをひっかけたりすると...、中から高温の液体が流れ出し、近くにいる子どもたちにかかり、やけどの危険があります。ミルクの調合や給食の配膳中は、保育者で声をかけあい、子どもを近づけないでください。



確認
しよう

手の届く範囲 = 台の高さ + 手の届く距離

「子どもの手の届く範囲」は年齢によって異なります。たとえば1歳児の場合、90cm以内とされており、高さ60cmのテーブルあれば縁から30cmより手前に置いてあるものには手が届きます。ひもを用意して、90cm、110cm、120cmのところに印をつけ、年齢ごとに手がどこまで届くか確認しましょう。



熱風・熱源に触れる場所

ファンヒーターから出る温風、加湿器の蒸気、ストーブ、ホットカーペットなどです。ストーブに触ったら熱い!と、触った経験がなくてもおとなにはわかります。でも、乳幼児にはまだわかりません。ヒーターの温風、加湿器の蒸気、ストーブの赤い炎、どれも子どもの興味を引き、触ろうと手を伸ばします。ストーブガードを使っても、ガードのすき間から手や指を入れてしまうこともあります。



つかまり立ちをしようとして暖房器具をつかみ、やけどをするケースも。ガード(安全柵)を使いましょう。

心地よい温度でもやけどになる

ホットカーペットや床暖房で温くなるのは、触れている体の部分だけで、長時間、同じ場所が触れていると低温やけどをすることも。ヒーターの温風も長時間あたってるとやけどの原因になります。また、ホットカーペットや床暖房の上に布団を敷いて寝かせると、布団の中の温度が体温よりも高くなり、湿度も高くなることから、熱中症の危険もあります。心地よい温かさでも長時間ずとはあぶないということです。

